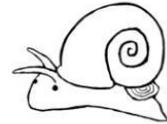


1. はじめに

皆さんはアオミオカタニシという生物をご存じだろうか。その名前を聞いてもあまりイメージが浮かばない方も多いのではないだろうか。今回は、この生物についてできるだけ多くの方に知っていただきたいと思い、この記事を書いた。

2. アオミオカタニシ(*Leptopoma nitidum*) について

右がその写真である。筆者はこの写真を見て非常に可愛いと感じた。アオミオカタニシの特徴は、目が触角の根元についていることである(下のイラスト参照)。また、白黒印刷の部誌ではわかりづらいのだが、エメラルドグリーンのきれいな色をしている。アオミオカタニシは国内では南西諸島、国外では台湾、パプアニューギニアなどに生息している。ただし、国内の生息域のうち奄美群島では絶滅したと言われている(詳細は後述する)。



3. 飼育方法

アオミオカタニシの姿を見て飼ってみたいと思って下さった方のために、以下ではその飼育方法を説明する。

(1) 飼育に必要なもの

- ・アクリルケース
- ・温湿度計
- ・エサ(詳細は後述する)
- ・パネルヒーター(冬季のみ)
- ・キッチンペーパー
- ・発泡スチロール(保温に用いる)



以上のものを使ってセットを作ると、右の写真のようになる。これらに加えて、湿度が足りない場合は霧吹きなどで水を吹きかける必要がある。

(2) エサについて

前述の通り、アオミオカタニシは温暖な地域に生息しており葉上生の

地衣類を食用としている。しかし、葉上生の地衣類は南西諸島特有のものが多く、本州にはあまり生えていない。実際には本州にも葉上生の地衣類は生えているのだが、数が少ない上に南西諸島のものとは種類が異なるためアオミオカタニシは好んで食べない。そのため、飼育する際のエサには本州にある程度多くあり手に入れやすいものが適している。

そこで、具体的に何を与えればいいのか、当時アオミオカタニシの研究をし、1年以上にわたって飼育していらっしやった竜洋昆虫自然観察公園の柳澤さんという方に伺った。その方のお話によると、アオミオカタニシは、すす病やうどんこ病の原因となるカビを好んで食べるそうだ。すす病とは、カイガラムシなどの排泄物をエサとして成長する菌が増殖することによって発症する病気で、葉に黒色のすすがついたように見えるためにそのように呼ばれている。うどんこ病は土の中にいる菌が風で飛ばされて葉について増殖することによって発症する病気で、葉に白いうどん粉をふりかけたように見えることが名前の由来である。実際、すす病が発症した植物の葉を与えてみたところ、よく食べていた。右の写真がその様子である。うどんこ病よりすす病の方が発生率が高いためそれが発症した植物が手に入りやすく、アオミオカタニシもよく食べてくれるようである。



4. 採集方法

アオミオカタニシは、主に石灰岩地域の森の中に生息するが、沖縄に行けば多くの場所で見られる。筆者が沖縄に行った際にアオミオカタニシをよく見かけたのは、以下のような場所である。

- ・山につながる林道や遊歩道
- ・市街地から少し離れた場所にある公園

採集以外でも、アオミオカタニシは大手オークションサイトや爬虫類即売会などでも簡単に手に入れることができる。この方が沖縄に行くよりも楽かもしれない。

5. 繁殖方法

アオミオカタニシの繁殖方法は未だに解明されていない。そもそも、自然界で繁殖している様子や孵化する様子さえ誰も見たことがないらし

い。また、オスとメスの違いがあるかどうかすら分かっておらず、その生態については謎が多いままなのである。そこで、アオミオカタニシの繁殖、孵化などを見ることができていないことを踏まえて、繁殖方法を自分なりに考えて以下に挙げてみた。

- ・繁殖、孵化ともに夜に行われており、アオミオカタニシ自体も夜行性である。

- ・川の中で繁殖している。

タニシと近縁であるから川の中でも生活できるのではないかと考えた。実際に筆者がアオミオカタニシを見つけた場所の近くには川が流れていた。

- ・土の中で繁殖している。

ただし、タニシなのでそこまで深く潜れないと思われる。

- ・木の上の高い場所で繁殖している。

ただし、高い場所で繁殖するメリットは見つからなかった。

- ・有性生殖を行っている。

タニシにはオスとメスの違いがあるのでアオミオカタニシにもオスとメスの違いがあると予想した。ただし、オスとメスが交尾している様子は発見されていない。

6. アオミオカタニシを求めて

前述の通り、図鑑などにはアオミオカタニシは奄美大島では絶滅したと書かれている。そこで、本当に絶滅してしまったのか、絶滅したとしたら何が原因なのかを調べに、今年の3月、奄美大島に行ってきた。森林管理局の方に許可を申請して金作原原生林での環境調査(捕獲なし)を行なった。

調査結果としては、アオミオカタニシ見つけることはできなかった。なぜ奄美大島から姿を消してしまったかの検討をつけることができたので箇条書きで以下に示す。

- ・温度が低すぎた。

筆者は奄美大島に着いた時、最初に感じたことは、思っていたよりも寒いことだった。繁殖には一定の温度条件が満たす必要があるのではないだろうか考えた。

- ・殻を作るために必要な石灰岩が足りなかった。

奄美大島は全体的にカタツムリの数や種類



原生林内の様子
(撮影：筆者)

が沖縄に比べて少ないように感じた。

・天敵が多く、数を維持できなかった。

奄美大島はアオミオカタニシの天敵の1つである鳥が多いように感じた。オーストンオオアカゲラなど、本州では見かけないような鳥も見受けられた。

今回の調査から推測すると、アオミオカタニシは奄美大島から絶滅してしまったというのは本当なのではないかと思われる。



7. 今後について

現状、アオミオカタニシの性質はまだ知られていないものが非常に多い。世界でも前例のない繁殖を目指して今後も飼育していきたいと思う。今後実験をするとしたら、人工的な水の流れを作り、温度を高く保って5、6匹を同じに場所に入れる、という形になりそうである。

8. おわりに

アオミオカタニシについてお分かりいただけたでしょうか。この記事を通して、その可愛さと奥深さが少しでも伝われば幸いである。また、アオミオカタニシの飼育方法やエサについてはあまり知られていない部分もあるため、アオミオカタニシに興味がある方が周りにいらっしゃったら伝えていただけると嬉しい。この記事で扱ったアオミオカタニシは文化祭で展示する予定である。ぜひ実物を見て行っていただきたい。

最後になるが、アオミオカタニシについての資料やご意見などを下さった竜洋昆虫自然観察公園の柳澤さん、金作原原生林への入林届の許可、奄美大島の生態系などの説明をしてくださった名瀬森林事務所森林官の茂野さん、突然の電話にもかかわらず親切な対応をとってくださった豊橋市自然史博物館の西さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

9. 参考文献

西浩孝「カタツムリハンドブック」文一総合出版 2015

大村嘉人「街なかの地衣類ハンドブック」文一総合出版 2016